

大規模事業計画内容

対象事業名	図書館整備事業	
担当部・課・担当名	生涯学習課 図書館	
事業開始年度	昭和58年8月5日 開館	
根拠法令等	社会教育法第9条、図書館法	
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施	
	<input type="checkbox"/> 業務委託または指定管理	
	<input type="checkbox"/> 補助金	
	<input type="checkbox"/> その他(
	<input type="checkbox"/> 未定(
事業概要	対象(誰・何を対象に)	図書館利用者を対象に 平成20年度入館者239,652人
	目的(何のために)	図書館利用の拡大として
	事業内容(手段、手法など)	開館から26年が経過したので、これから図書館としてのサービス提供のあり方や本館・分館としての施設面でも検討する時期にきていることから、鉄筋コンクリート平屋建て図書館建設を想定する。
	事業規模 (敷地面積、建設面積、定員、部屋の数など)	敷地7,000㎡、建物延床面積3,400㎡、蔵書数320,000点
事業の経緯 (事業が選定された経過など)	開館時に10万点所蔵の図書館としてスタートした。26年で19万点を所蔵する図書館と成長した。利用者から図書の閲覧だけでなく図書に付属した行事の開催を求められるようになる。利用者の要望に施設面で応えられない状況。施設の床面積は、1694.87平方メートル。	
現状	昭和58年8月に所蔵書数10万点規模として開館し、平成20年度の蔵書数は19万点を超えている。書棚と書棚の通路空間は、車椅子も通れる幅を確保しているため、これ以上新たな書棚の導入はむずかしい。平成21年度4月1日人口76,660人、所蔵数190,616点	
市民ニーズ	(定量的: 市民意識調査等から)	
	平成19年と平成20年に実施「外環上部の利用アンケート調査」公共施設として整備する10の施設のなかで1位公園、2位図書館、3位葬祭場の結果がでた。	
市民ニーズ	(定性的)	
	利用者から閲覧席の増設やよみ聞かせのできる専用コーナーの設置とエレベーターの取替など施設面での改善希望が寄せられている。	

施設整備前の資源投入量(現在までかかった経費など)	内 訳		金額(千円)				
	経費	なし					
	時間	なし					
	人的資源	なし					
今後かかる将来のコスト	内 訳		金額(千円)				
	用地買収費	7,000m ² (単独館)				1,743,000	
	建物建設費(設計・監理含む)	設計費 54,543千円、建築費 1,071,000千円				1,125,543	
	施設整備後のランニングコスト(年間)	メンテナンス費用(施設維持管理等)	清掃 5,983千円、運営委託 28,431千円				34,414
		光熱水費	光熱水費 7,651千円				7,651
		人件費	職員 4,062千円×7人、非常勤職員 1,224千円×1人				29,658
財源(国・県補助など)	なし						
事業見込み	活動指標名	現年度	1年目	2年目	3年目		
	開館日数(1館あたり)	290	338	338	338		
	所蔵数(77,000人規模)	190,000	233,000	277,000	320,000		
成果見込み(定量的)	成果指標名	現年度	1年目	2年目	3年目		
	人口一人当たりの資料数	2.49冊	3.03冊	3.60冊	4.16冊		
成果見込み(定性的)	市民の生活のなかの図書館として、個人の向上や課題解決の場として図書館の活用を図る。						
事業の課題等	図書館用地の選定と取得及び建設に必要な経費が年度予算に占める割合が大きい。						

他自治体での取組み	志木市における志木小学校といろは遊学館は学校と図書館とが融合した施設。
他の方法での取組み	PFI事業の導入(民間の資金と経営能力・技術力を活用し、設計・建設・維持管理運営)
環境への配慮(負荷)	省エネルギー機器を取り入れ環境に配慮した設備機器の導入を図る
市民協働・市民参加の拡大(準備段階・実施段階)	建設を検討する際に市民の意見を反映させる検討委員会の設置

大規模事業検証会議 事業評価結果

対象事業：図書館整備事業

○概要（所管課の現行計画・意見交換等で明らかになったこと）

- ・ 現在は民間商業施設の上部にある。
- ・ 昭和58年に所蔵書数10万点規模として開館し、平成20年度の蔵書数は19万点を超え、これ以上の蔵書によるスペースの確保は難しい。
- ・ 外環上部利用アンケート（H19）の実施では、公共施設として整備する10の施設の中で、1位の公園に続き2位にランクされていた。
- ・ 現在のところ、建設場所の候補地等の具体的な計画はない。
- ・ 7,000㎡（単独館）の規模であると、建設費として約11億円を所管課（図書館）では想定している。
- ・ 利用者から閲覧席の増設やよみ聞かせのできる専用コーナーの設置とエレベーターの取替えなど改善要望が寄せられている。
- ・ 公民館の図書室に図書館機能を持たせて有効活用している。
- ・ 建設にあたり、国の補助金制度はない。
- ・ 図書館機能として、中央集約型、分散型などの具体的計画は現段階においてない。
- ・ 移動図書館の運行は、平成15年まで行っていたが、利用者減少や排出ガスの規制対象化により廃止となった。

○評価コメント

図書館には、文化・教育施設としての機能から、情報センターなどのビジネス支援機能などまで、様々な機能が考えられる。このことから、和光市の都市機能（都市としての魅力）を高めるためには、将来的には充実した図書館は必要であると考ええる。しかし、直面している財政状況を考えれば、緊急性はない。

しかし、将来的には、充実・発展させる必要がある施設であると考えことから、図書館建設の際には、市民に意見を問い、議論を重ね、運営手法、果たす機能などを他の自治体を参考にしながら、和光市にとって適切なものをつくる必要がある。総合しての評価点数は低いが、本会議としては、図書館整備への期待は提起するものである。

○評価点数

(1) 緊急性	1
(2) 目的の妥当性	1
(3) 公平性	1
(4) 効率性	1
(5) 手法の適正化	1
(6) 成果（効果）	1
(7) 環境への配慮	1
(8) 市民協働・市民参加の拡大	1
合計点数	8

